

瀬戸の茶碗

内山登美子

夜のおそい食事が終ると
 夜のおそい食事が終ると
 もうかえらなければ
 と **□** 母はかえうていくも
 この世になんの未練もないらしい
 藍の染めの瀬戸の茶碗が **□** きれいに伏せられ
 ていて

そとでも母は **□** ときどき遊びにくる
 深い谷を越えてきたとか
 足が痛むとか
 胸が苦しいとか言いながうも
 長谷川等伯の屏風絵の
 薄明の木立ち
 いま抜けてきたという風情で **□** 素足に
 露を踏んで